
妖怪の蔑み

ゆうた

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

妖怪の蔑み

【Nコード】

N9863Y

【作者名】

ゆった

【あらすじ】

吸血鬼の男の子と普通の女の子が織り成すバカな小説です

モノローグ

「おはようございます 式羽^{にわ}智美^{ともみ}といいます 今月この学校に転校してきた者です 宜しくお願い致します」

「そう言っていると私は頭を下げた」

「お父さんの仕事の関係でこの学校に転校してきた 転勤だったのかな？
そう言ってたけど本当は島流しなのだ
島まで流されたわけではないけど」

「まゝド田舎だ ウン」

「ん、式羽は左から2番目の一番後ろの席に座ってくれ
これからHR^{ホームルーム}始めるぞ」

「前の席の人は銀髪 赤眼の男の人だった」

「（不良かな？）」

「あの……おはよう？」

「ああ おはよう」

「につこりとおはようと返してくる」

「部活は？」

「テニス」（幽霊部員でしょ）

「趣味は？」

「夜遊び」（やっぱなあ）

「性格は？」

「おとなしい」（嘘付けっ）

「好きな食べ物？」

「ん……肉かな？ 特にレア」

これらのことが今日聞き込みをした結果だ ウン悪くない

この人はあまり悪そうな人ではなかった 先生に「なんで銀髪なんですか？許してもいいんですか？」

と聞くと「あの子のは地毛だよ それにあの眼もカラコンではない」

らしい」

すごい人も居るもんだ

私は前の学校でもテニス部に入っていたので一応テニス部に入部
偶然？奇遇？

部活の時間になるとまず例の子に話しかけた　　そういえば名前聞いていなかったな

「こんにちはっ！　お名前は？」

「……俊咲輝也しゅんさく てるや」

「輝也君だね覚えとこ」

「苗字で呼べ」

「えー 名前のほうがいいと思うよ？」

「それとー俺に付き纏うな　痛い目にあうぞ」

「えーなんで？」

そういうとさつきからクスクス笑っている女の子グループを指差した
指差されたグループは一気にシーンとなって四散した

私はその中の一人を捕まえて簡易事情聴取を執ることにした

モノローグ(2)

「いや 少し話を聞いてもいいかなー？」

「いえ あの その」

私は小動物系というんだろうか？ かわいらしい女の子を壁に当てて脅している

ウン はたから見たら普通に変体行為だね」

「まずは……なぜ笑っていたの？」

「いやあ……その……あの……グループでそうなってるんです」「？」

「リーダーみたいな人がそう言うのと逆らえないんです」

「中心人物は？」

「い………言えません！」

「ふうん？」

「ひっ！？」

私はその子を連れて（手首を後ろで縛って）私が思い当たる女の子のところへ連れて行った

「やつ 弔さんつむぎさん」

「ああ 弔羽さんか 部活は？」

「サボってますひとつ質問していいですか？」

「なに？」

縛られている女の子はじつとしている

「この子の仲良くしているグループのリーダー的な人って知ってる？」

この人は学級委員でクラスのこととはよく観察していると先生が言っていた

「うーん 御木本さんかしら？」

「っ！」

核心を突いたようだ

（1時間後）

「あら？ 式羽さんじゃない　なんで樽谷さんの手縛ってるの？」

「あなたに話があつてきました」

私は手枷を取つて離れた　すると一目散に逃げた

「なにかしら？」

「輝也君のことです　なんであなたの仲良ししているグループで避けてるんですか？」

「そこまではれちゃってるの……」

「答えてください」

「フられたからよ」

「……それだけ……ですか」

「そうよ」

「あなたが？」

「そうよ」

「好きだったんですか」

「そうよ」

「今は？」

「関係ないわ」

「そうですか」

「それで？あなたが言いたいことはこれだけじゃないはずよ」
「……」

この人も私のことをよんでいるみたいだった

「言いなさいよ」

「輝也君を阻害するのはやめてください」

「イヤよ」

「え？」

「イヤよ絶対イヤ」

「なんでです？」

「私をつつたから」

「……それじゃああなただけ阻害すればいいじゃないですか
あなたのおかげで輝也君が肩身の狭い思いしてるんですよ！？
あなたの影響力を考えたことあります？

学校全体が一人を阻害したらどうなるか分かりますか！？」

私はいつの間にか怒鳴ってしまった

前の学校では人前できつぱり言いすぎていじめられていた過去がある
どこかフラッシュバックしてしまったのだろう……

「あなたの言いたいことは……わかった」

そう言っでなんとなく反省した顔でどこかに消えた

部活終了の音楽がながれている　10月のことだった

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9863y/>

妖怪の蔑み

2011年11月29日22時49分発行